

## 柿田 和美 議員



### 一問一答方式

- ① 防災・減災対策
- ② 教育環境の整備
- ③ 子ども医療費
- ④ 健康づくりの推進
- ⑤ 男女共同参画

### 防災・減災対策について

**問** 近年は住民間のコミュニケーション

シヨンが取りにくくなったとよく聞くが、今こそ近所との交流を深めるいい機会であると思う。水害だけでなく、今後は南海トラフ大地震も視野に入れ、地域の防災力を高めるためにも早急な地区防災計画の策定が重要であると思うが、地区防災計画を策定している地区はどのくらいあるのか。また今後どのように推進していくのか。

**答**

現在、33地区の自主防災組織のうち、三善・肱北・白滝・今坊・長浜自治会の5地区が策定済み、20地区が策定作業中、残りの8地区も策定に向け検討中です。

計画の策定は、内閣府作成の地区防災計画ガイドラインを参照に進めていただきますが、地区からの要望に基づき危機管理課職員が支援させていただきます。

また、地区防災計画を策定された自主防災組織に対し、平成29年度から平成31年度までの3カ年限定で10万円の活動費を交付することとしており、全地区での地区防災計画を策定していただくよう推進します。

### 教育環境の整備について

**問**

今回の水害では、家が浸水し水がどんどん迫ってくるのを見て、怖いと泣き出した子供もいたそうである。災害後の心のケアは忘れてはいけない取り組みである。

そこで、児童生徒、保護者からの相談はどのくらいあり、どのような内容であったのか。

**答**

本市では被災した子供たちへ適切に対応するため、専門知識を

持った臨床心理士が保育所、幼稚園、小・中学校を訪問し、教職員への研修を行うとともに、心身の不調を訴える子供やその保護者を対象に相談活動も実施しています。

相談件数は、11月末までに217件で、内訳は、児童・生徒が64件、保護者が27件、教職員が110件、その他地域住民の方などが16件です。相談内容については被災による不安やストレス、健康に関することなどでした。

今後も、子供の心身の不調が続いたり後から症状が出る場合に備え、長期的に子供の心のケアを実施していきたいと考えています。

### 健康づくりの推進について

**問**

生活習慣病予防の健康診断の受診、健康教室への参加、ウォーキング等の健康に関する諸行事への参加や取り組みに対して、ポイントを付与するという制度の導入が全国的に進んでいる。

この制度は、たまったポイントの特典を設定して、楽しみながら目標を持って行うという、市民の健康意識の定着を図るものとなり、さらに

は医療費削減にもつなげていけるのではないかと期待される。

宇和島市では4月から制度を導入して進めており、八幡浜市でも導入をするという話も聞くが、本市としての市民の皆様の健康増進の動機づけとなる施策があれば伺いたい。また、この制度の導入についての所見をお伺いする。

**答**

健康ポイント制度の導入は、健康への意識づけの有効な手段の一つと考えますが、制度設計や財政負担、各担当部署や協力事業者間の連携など多くの課題を伴うため、今後先進事例の効果や費用面の課題、さらには利用者の平等性の確保などを調査研究していきたいと考えています。

なお、本市では、心の健康づくりや食育などの講演会や各種健康教室などを開催し、健康増進の動機づけを図っていますが、市民の皆様に関心を持っていただけるよう、事業実施にあたっては工夫を行い効果的な広報活動に努めたいと考えています。